

「阪神高速 未来へのチャレンジプロジェクト」
第1回助成・事業実施報告書

1. 基本事項

団 体 名	多文化共生センターひょうご		
事 業 名 称	多言語による地域の交通安全推進のためのツール作成	助成額	50万円
申 請 事 業 の 概 要	在住外国人に対し、日本の交通法規や交通安全に対する取り組みに関する理解を促す多言語版ツールを作成する。また、地域の日本語教室等でこれらを用いた交通安全に関する理解促進の場を提供する。		
申 請 事 業 の 目 的	交通ルールやマナーを外国人にもわかりやすい形で「見える化」し、安全・安心なまちづくりに寄与する。また、現在地域（神戸市東灘区深江地区）で進められている「深江地区まちづくり構想」の具体的提案の資料とする。		
関係するSDGs目標	 		

2. 助成事業の実績・成果等について

1. 多言語版交通安全ツール「たぶんかおやこえほん みんなで交通安全」作成

《仕様》A4サイズ冊子、カラー28ページ、500部作成

日常場面を通じて、日本の交通法規や安全な走行、事故対応などを学べる絵本型パンフレット。

前半部分：主に子どもが読むページ。場面別に「あるく」「じてんしゃ」「くるま・バイク」の3部構成とし、適切でない行動をそれぞれ「まちがいがさし」形式でページ展開を行うことで、楽しみながら交通安全に関する知識を身につけることができる。

（例）自転車のページ…右側通行、横並び、二人乗りなど

車のページ…チャイルドシート非着用、飲酒運転、禁止場所への駐車など

後半部分：主に大人が読むページ。基本的な日本の交通ルールや自動車・自転車保険加入の重要性、事故対応などについて説明している。

使用言語はやさしい日本語（ひらがなを主とした表記）、英語、中国語、ベトナム語、タガログ語、スペイン語。

内容選定にあたっては、神戸市内の外国人コミュニティや関連NGOメンバーにヒアリングを実施し、項目の絞り込みを行った。これら協力団体には完成した冊子を配付するとともに、必要に応じて交通に関する相談にも対応。



配布先として、地域（神戸市、芦屋市および周辺）の外国人支援団体、日本語教室、外国ルーツの子どもの学習支援団体、児童館、外国人コミュニティ等。

2. 地域での共有

深江地区まちづくり協議会の有志グループ「未来創造部会」において外国人コミュニティに対するヒアリング結果（日本の交通ルールでわかりにくい点や母国とのちがひ、交通安全上問題と感じているところ等）を共有。当該地域は阪神電車の高架化に伴い交通事故が多発していることが目下の課題となっており、信号機の新規設置などのインフラ整備が行われている最中であり、交通安全に関する意識が高まっている時期でタイムリーに課題提起ができた。

また、ヒアリング結果は地域のイベント（多文化フェスティバル深江）の会場内でクイズとして活用した。（※期間外）

3. 課題分析や今後の発展性

《課題分析》

神戸市東部は交通量の多い幹線道路が走っており、特に当団体のある東灘区は物流の要所であることから大型車の通行が多く危険な交差点などが多い地域である。そのような中、臨海地域の食品工場で働く外国人労働者が増えており、通勤や生活移動用に自転車等の利用が激増している。彼らの多くは母国では日本とは異なる交通システムで生活しており、日本の交通法規等について学ぶ機会が保障されていない。また国籍や在留資格によって、長期に在留する人と比較的短期の人の間に意識の差があり、ひとくりに外国人といっても交通安全上の問題は多様であることがわかった。その中で自転車に関してはさまざまな世代が利用することもあり、ヒアリングでも意見が多くみられた。また日本では公道走行が認められていないフル電動自転車を利用している人がいる一方、保険（自賠責・任意）への加入率が低く万一に対する備えができていない傾向があった。

さらに近年、阪神電車の高架化が完成し踏切がなくなったことにより事故が増加するという問題も出てきている。（こちらは元々歩行者の事故が多い場所であった）

《今後の発展性》

地域の外国人は今後も増加傾向が続くと思われる。現在は自転車利用者が主であるが、近年になって物流会社や人材派遣会社の運転手として働く人も増えており、交通ルールの順守は安心・安全なまちづくりのために取り組み続けなければならない課題である。深江地域は「外国人も住みやすいまち」をめざしており、今回作成したツールをより多くの場所で発信していきたいと考えている。

4. 代表者又は担当者からのひとこと

2019年度から1年に一度のペースであるが、外国人の家族に向けて絵本形式の情報冊子を作成してきている。外国人コミュニティの中からは次作への期待の声もいただいております。具体的な企画も進んでいます。また、子どもを主なターゲットにすることで、家族（大人）にも関心を持ってもらうことができ、今後も続けて取り組んでいきたい。